

## 谷川連峰 オジカ沢

小暮

【日 時】 2008年9月23日(火)

【メンバー】 小暮、笹川

オジカ沢は、ガイドブックにこそ大きく取り上げられてはいないものの、とにかく登れる滝が息もつかせのように連続して現れ、さらに豪快な大滝も快適に登攀することが出来る非常に素晴らしい沢であった。

谷川温泉奥の登山口駐車場に車を止め、長い沢を一日で駆け抜けるために朝5時に出発する。ヘッドランプで登山道を確認めながら黙々と歩いていくと、夜も明け長いアプローチにうんざりしてくる。いわお新道の手前の河原で一本立てると、ヤマビルの嬉しくない歓迎を受ける。中ゴ-尾根の取り付きを見送り、オジカ沢に入ると、美しいナメ床と正面にそびえる幕岩の堂々とした素晴らしい景色に歓喜する。

河原をしばらく進むと、最初の8m滝だ。左岸から登れないか様子を見るが、やや外傾していて登れないことは無いが、ザイルが必要な感じである。最初からザイルを出しては、日帰りとしてはかなり長い沢だけに時間が心配なので、右岸の枝沢脇の草付きから巻くことにする。ところがここでアクシデント発生。草を掴んでの高巻きで、斉藤君が足をスリップさせてしまう。うずくまった様子に声を掛けると、滑った拍子に鼻の穴の中に草の茎が入ってしまったという。鼻血を出して辛そうな斉藤君は気分が悪いと言い少し休んでもらったが、ここで遡行を諦めて自分一人引き返したいと言う。まだ本格的な連瀑帯に入っていないF1からであれば、一人でも登山口にはたどり着けるだろうという。非常に残念だがここで別れて遡行を続ける。

F1の先をうかがうと、登るのが大変そうな滝が見えるので、まとめて滝を二つ共巻くことにして、灌木を掴んでトラバースして落ち口へと降りる。その先は、適度に楽しめる程度の滝が連続して現れる。河原はほとんどなく、滝の連続だ。お助け紐を使いながら、次々と越えていく。

崩れかけた雪渓を乗り越し滝を二つ登ると、正面に大滝が現れる。流芯の右側から容易に登れるのだが念のためザイルを出す。一段上がってピンを取り、さらに斜上する。なかなか快適な登攀。続いて2段60mの滝。ここも最初の一步が悪いのでザイルを出して取り付く。トイ状の水流は避けて右側の岩に登る。ザイルが一杯となってピッチを切り、その先は巻き気味に笹藪を掴んで滝上に出た。その先はナメ状の滝がいくつか出てくるので、いずれも登っていく。





二俣を過ぎて前衛の 7m滝を越えると、ナメ状の大滝が現れる。ここは、10m程度の滝の連瀑帯となっているのだが、左側のスラブの傾斜のゆるい所を拾ってフリークライミングで登れる。難しくなくスイスイと快適に登れて楽しい。左側を見れば幕岩の豪快な壁がそそり立っていて気分は最高だ。その先には、直瀑 10m。直登は厳しいので右側の熊笹の草付きを巻いたが、笹の上に置いた足が定まらず腕力を消耗させられてしまう。その先にも滝があるので、まとめて巻くが水平距離で 30m 程度の高巻きにもかかわらず腕はややパンプ気味だ。ビヴァークポイントの二俣を過ぎ、その先も滝をこなしていくと 12mの滝。ボロボロの岩壁で正面突破は諦めて、左側からバイルを土壁に差し込んで登るが、パンプした腕で灌木の無いところを巻くのが非常に悪い。

三俣は真ん中へと入り、ヌメヌメとした滑り易い滝がいくつも出てくる。もう沢のかなり上部に来ているのだが、10mクラスのヌメった滝が出てくるので、いいかげん疲れてきた。周囲は、風にザワザワとなびく草原が美しい。周囲の景色を楽しみながら登り、やがて笹藪となり俎岨山稜の藪尾根に出た。かかるとは思っていたが結構時間がかかった。

風の強い稜線の熊笹を掻き分けて行くとオジカ沢の頭の避難小屋に飛び出した。急いで中ゴー尾根を下るが、二俣を過ぎたところで日が暮れてしまい、長い沢沿いの登山道を歩いて駐車場に着いたのは 19 時を回っていた。都合 14 時間の行動でとても疲れたが、息もつかせぬ滝の連続で充実した山行であった。



### 【行程】

9/23 登山口 (5:05)～入溪 (6:40)～中の二俣(11:10)～上の二俣(12:25)～三俣(13:10)～オジカ沢の頭避難小屋(14:50)～中ゴー尾根分岐(15:30)～二俣(17:40)～登山口 (19:05)

【地図】水上 【グレード】3 級上



谷川 オジカ沢  
2008年9月23日 小暮、笹川

